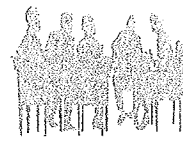


Name of Media	: Jiji Press - Top Confidential, Japan
Date of Article	: 29 June 2007
Author	: Kensaku Watanabe
Pages	: 1/4
Notes	:

©2007年6月29日[金] Jiji Top Confidential 第3種郵便物認可

WORLD AFFAIRS

「和後」に焦点―アジア・欧州フォーラム
紛争地域の平和維持模索



アジア欧州財団（ASEF）が主催する国際フォーラム「第五回アジア欧州ラウンドテーブル」が五月下旬、シンガポールで行われた。東南アジア諸国や欧州各国の政治家、学者、国際機関職員ら四十人以上が一室に会し、地域紛争後の平和維持をテーマに意見を交わした。インドネシアのアチエ紛争やフィリピンのモロ・イスラム解放戦線（ MILF ）との闘争など多くの経験を持つ東南アジアを中心に、国際社会の関心が薄れやすい「和後合意」の時期に焦点を当てる試みだ。

ASEFは、アジアと欧州の交流促進を目的とするアジア欧州会議（ASEM）参加国からの拠出を得て一九九七年に設立され、シンガポールに本部を置く。人的交流、知的交流などの分野で主に活動している。まず「和後」とはいかなる状態を指すのか。今回のフォーラムでは、次のように

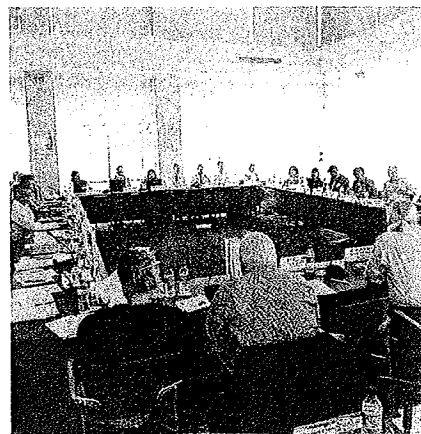
定義されている。

① 武装闘争が和後合意によって解消している
② 武装解除が実現している
③ ある程度の期間、平和が維持されている
④ 政府の再建などが間近に迫っている――。

大切な「制度づくり」

こうした時期における選挙や適切な財政支援など「制度づくり」の在り方が討議の中心になった。平和を達成した後、制度づくりをどれだけしっかりできるか。それは平和を維持し、新しい火種をつくらないようにするために最も重要な要素だ。

非政府組織（NGO）「人道対話センター」（本部ジュネーブ）のマイケル・バティキオティス氏（英国）は、安定的な制度づくりを円滑に行うために必要な枠組みとして、「政治的な意志」「司法制度と和解」「地域の協力」などを挙げる。



ASEF主催の国際フォーラム（筆者撮影）

バティキオティス氏は、東南アジアの紛争後における「制度づくり」の問題点について、和後合意を破棄しようとする動きが出るのではなく、「和後合意後の統治がまずいことだ」と指摘する。平和を保てるかは、政治に参加する全政党に和後に協力する意思、能力があるかどうかにかかっている。だが、東南アジアの場合は、平和を維持しようという政治的な意志の弱さが問題だという。

七〇年代後半のカンボジアのポル・ポト政権時代に起きた大量虐殺などの罪を裁く特別法廷の広報担当ヘレン・ジャーンビス氏は、紛争後の司法の在り方として、国内の

Name of Media	: Jiji Press - Top Confidential, Japan
Date of Article	: 29 June 2007
Author	: Kensaku Watanabe
Pages	: 2 / 4
Notes	:

©2007年6月29日[金] Jiji Top Confidential 第3種郵便物認可

判事と国際社会から招聘（しようへい）した判事で構成する「混合法廷」の意義を強調する。旧ユーゴスラビアのように国内の戦犯を海外の判事が裁く国際法廷になかったのは、内戦で分裂した国家の和解プロセスに影響を与えないよう配慮したためだという。力不足の面もある国内の法廷だけで裁くのは違い、混合法廷は国際社会からも正当性を得られる折衷的な仕組みでもある。

ポル・ポト法廷は和解プロセスの時代を経て、ようやく実現にこぎつけた。カンボジア人十七人と外国人十二人の司法官による合議制を採り、二〇〇八年までに被疑者の起訴を目指している。

選挙は「出口戦略」ではない

紛争を終結した国家の最大のイベントは選挙である。紛争地域に介入した国際社会も、選挙を一つの「出口戦略」とするケースが多い。最初の選挙が成功すれば紛争の終結と見なし、撤退する傾向にある。

だが、アフガニスタンなどで選挙の実施にかかわったコンサルタント、ジェローム・レイロー氏（フランス）は「選挙は入り口であり、一回ぎりの行事ではない」と

強調した。性急な選挙実施を求めたり、最初の選挙ばかりに注目したりする現状に警鐘を鳴らすものだ。同氏が示した選挙サイクルのモデルによれば、最初の選挙から三〜五年間の「選挙と選挙の間の時期」が安定化のために重要になる。

実際、グスマン大統領の選出を経て〇二五年に独立を達成した東ティモールでは、〇五年に国連の部隊が撤退した。だが、二回目の大統領選を約一年後に控えた〇六年四月、大規模な暴動が発生。再び平和維持活動（PKO）部隊が駐留する事態になった。

援助無にする汚職

紛争後の復興・発展には経済援助が不可欠だが、同時に当事国の汚職問題にも目を配る必要がある。各国政府の汚職の実態を監視するNGO、トランススペアレンシー・インターナショナル（本部ベルリン）のリー・チョンサン氏（マレーシア）は、「政府機関が機能していない国に突然、援助資金が入ることで、汚職の機会を提供してしまう」と言う。汚職がはびこったままでは、国際社会からの経済支援が無駄になりかねない。

国連東ティモール事務所の代表を務めた

長谷川祐弘法政大学教授も「公共事業としては行えないようなところにお金が入ったり、お金をあげても道路ができなかったりということがある」と指摘する。

リー氏は汚職の定義を「信託された権力を個人的な利益のために乱用することだ」と説明。汚職に立ち向かおうという国民の意識を高め、権力者に機会を与えないことが重要だと主張した。

国際民主化選挙支援機構（IDEA）のレナータ・タルディオリ氏（イタリア）によれば、欧州連合（EU）は欧州や域外の紛争地域への協力も積極的に行っている。東南アジアにおけるEUの選挙監視活動としては、インドネシアのアチェで東南アジア諸国連合（ASEAN）五カ国と共に国際監視団を組織した。一年余りにわたり和平プロセスを監視し、成果を上げた。

バティキオティス氏は、「東南アジアの紛争は、域内のより良い協力があれば、ずっと以前に解決しただろう」と主張する。旧ユーゴスラビア紛争など欧州の地域紛争解決に大きな役割を果たしてきたEUのように、今後は、ASEANのアジアでの地域紛争解決に対する潜在的な能力も期待される。

Name of Media	: Jiji Press - Top Confidential, Japan
Date of Article	: 29 June 2007
Author	: Kensaku Watanabe
Pages	: 3/4
Notes	:

◎2007年6月29日[金] Jiji Top Confidential 第3種郵便物認可



長谷川祐弘法政大学教授(筆者撮影)

国際機関の支援は3段階で

長谷川氏は、国際機関による支援の在り方として、三段階の援助が必要だと力説する。「技術や知識の提供」に「システムづくりの支援」、そして「組織を支える公平な指導者の育成」である。同氏は「技術だけ与えても駄目だ」と言い、二番目のシステムづくりの支援を最重要課題に挙げた。例えば、学校に教師を派遣するだけでは十分ではない。授業のカリキュラムから給食の配給までのシステムがきちんとしていなければ、生徒は安心して学ぶことができず、援助も無意味となってしまうからだ。

中東、アジア、アフリカ諸国……。世界中のどこを見回しても紛争や内戦は絶えない。一方、内戦を克服し、社会の融和を目指している国家も多く存在する。多くの報道がなされる戦争の現場や停戦交渉などと比べて、和平後の統報の扱いは小さい。だが、そこには和平達成以上の困難が待ち受け、国際社会の協力も求められていることを忘れてはならない。

東ティモールの状況―長谷川氏に聞く

国連東ティモール事務所の代表を務めるなど国連職員として東ティモールに深く関わった長谷川氏に、和平合意後の時期を迎えている国家の一例として、同国の状況について話を聞いた。

―移行期の司法という点でうまくいったのか。

○六年四、五月に発生した暴動は、人事管理が不公平だとして起きた元兵士のデモに学生らが同調し、暴力化したものだ。警察は止められず、国軍が出動し、武装闘争になった。これらの事件は、国際裁判に持つていかず、あくまで国内の司法制度でやることにした。ただ、国内の司法制度は貧弱で、国連などを通じて裁判官や検察官を

連れて来ることになる。

責任追及よりまず安定を

―問題は何か。

○六年の闘争で、アルカティリ首相が武器を配布したという疑いも掛けられているが、それを今の段階で追及すべきなのかどうか。ロバト内相が裁判に掛けられたので、それで一区切りを付け、国を安定させるのがまず大事ではないか。正義の追及も、治安の安定化と平和の維持という現実面を考える必要がある。

―二回目の大統領選を終え、選挙制度は安定化したのか。

投票は整然と行われた。特別な暴力事件もなかった。(敗北した)フレテイリンのルオ党首が結果を認めるなど、それなりに有意義であった。国民は自分たちの意思で投票しており、買収とか威嚇は行われていない。東ティモールは民主主義の成熟過程に入りつつあると言える。

―今後の課題は。

雇用を与えられるような経済、社会開発をいかに迅速に行うかだ。首都デシリでは、国連など国際機関を中心に雇用の機会はあるにありながら、それ以外の地域でも雇用

Name of Media	: Jiji Press - Top Confidential, Japan
Date of Article	: 29 June 2007
Author	: Kensaku Watanabe
Pages	: 4 / 4
Notes	:

©2007年6月29日[金] Jiji Top Confidential 第3種郵便物認可

部隊駐留は「保険」

を増やす必要がある。問題は、ハイコスト経済をつくってしまったことだ。国連が来て、人工的な賃金体系ができてしまった。一日の賃金が三、五十倍で、西ティモールの倍。そのため、普通の外国投資が入ってくる可能性が少ない。そこが一番の問題だ。

— 国連などはいつまで駐留すべきか。

今の千六百人という数は要らないと思うが、数百人の重武装をした部隊に残ってもいい、国連で費用を出すべきだ。ラモス・ホルタ大統領は三、五年は必要だと言っている。国の指導者や治安関係者には（武力で解決しようという）メンタリティーが内在しており、外国の軍隊、警察がいなくなると武力闘争に戻る危険がある。駐留は保険のようなものだ。

— 日本の支援の評価は。

今回、日本が警察官を派遣したのは非常に良いことだ。日本の警察は、地域に密着した治安活動ができる警察制度、交番を含めて、よくつくり上げられた組織だ。世界的に卓越している。それを東ティモールや他の発展途上国にも伝えてほしい。

(渡辺健作 外信部)



食と健康のおいしい関係、徹底説明!

監修 五明紀春(女子栄養大学教授・農学博士)
料理 古川知子(女子栄養大学生涯学習講師・管理栄養士)

おいしく食べて、
まいにち健康。

まいにちを楽しむ

食材健康

Healthy Foods Encyclopedia

大事典

502 品目 1590 種



注目の機能成分、簡単レシピ満載!

**基本の栄養素から保存方法まで、
食材に関するお役立ち情報満載!**

効能、栄養素、機能成分
選び方のポイント、保存方法
Roots&History
種類と仲間、簡単レシピ

AB判変型
(265mm×210mm)
並製・オールカラー
560ページ
ISBN4-7887-0561-3 C0077
定価3990円(本体3800+税)

時事通信社

時事通信出版局
営業企画部

〒100-0011 東京都千代田区千代田2-2-1 日本プレスセンタービル1F
Tel: 03-3501-9855 Fax: 03-3501-9868 URL: <http://book.jiji.com/>